

# エゾマツ

ボランティア・レンジャー  
「エゾマツ会」

昭和62年10月1日

発行責任者 河村 千束

ボランティア・レンジャー「エゾマツ会」によせて

自然保護課長 紺野 忠義

空がどこまでも高くすみわたるすがすがしい季節とでりました。  
昨年発足されたボランティア・レンジャー「エゾマツ会」も、2年目を迎えます  
ます活発にご活躍されていることを心からお喜び申し上げます。

この1年間、皆さんは、野幌原始林公園をはじめとする各地での観察会や8月に  
大沼で行われた第2回ボランティア・レンジャー育成研修会などで、いろいろとご  
協力いただきたいへんありがとうございました。受講生からアドバイザーや講師へ  
とめまぐるしい変遷をとげ、少しとまどいながらも立派に活躍されている様子が、  
会報「エゾマツ会」を通してひしひしと伝わってまいります。

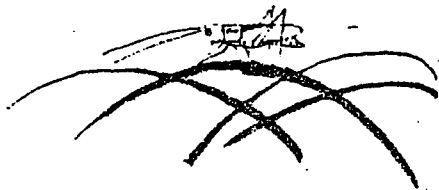
雄大な自然に恵まれている北海道でも、今ほど自然がクローズアップされている  
時代はないと思います。しかし、同時に自然に触れたことのない子ども、どうやっ  
て接したらよいかわからない大人が増えているのも事実です。

自然のしくみや大切さを、木々や鳥、道端の草花から優しく解説するアドバイザ  
ーがほしい———このような観点からボランティア・レンジャーの育成をはじめ  
ましたが、今後も引き続き同様の研修会を開催し、皆さんの仲間を増やしてゆきた  
いと考えております。

8月には2期生の皆さんも誕生いたしました。これからは卒業生どうし、会員ど  
うしの横のつながりも盛んになり、各地で活動の機会が増えることと思いますが、  
どうか、初めて野山を歩く子どもたちと同じくらいフレッシュな気持ちで、自然に  
親しみながら楽しく活動していただきたいと思っております。

自然に対する正しい理解と認識が道民の隅々まで拡がることは、私どもとしても  
強く願っていることであり、ボランティア・レンジャーの皆さんの活躍が、道民一  
人ひとりの自然に対する正しい理解と認識を深めることに大いに寄与するものと強  
く確信しております。

皆さんのより一層のご活躍とご発展を心からご期待申しあげ、よせる言葉といた  
します。



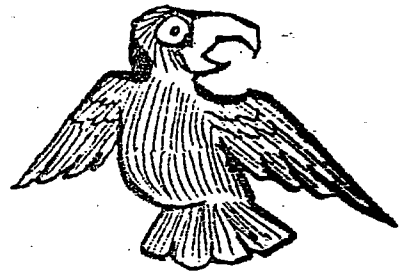
## 第2回ボランティア・レンジャー「エゾマツ会」

### 総会報告

8月21日大沼で開催致しました第2回「エゾマツ会」総会において、62年度事業計画並びに予算案（別紙）が、次のように承認されました。

#### ○ 事業計画

- (1) 観察会の実施
- (2) 研修会の開催 年4回
- (3) 会誌の発行 年4回



(1) の観察会は「エゾマツ会」主催の観察会で(2) の研修会は、夏休週間に道が行う観察会への協力参加や「ボランティア・レンジャー育成研修会」参加等、関係機関が行うものも含まれますがバスをチャーターして、アポイ岳周辺の動植物の観察会や富良野東大演習林、また旭川の嵐山・北邦野草園・21世紀の森での実施（意見）等が話題にのぼりました。それぞれの地区におかれましても観察会に適する場所等について支庁（自然保護係）と協議のうえ、地区連絡員とも連携を密にして可能性を検討していきたいと考えています。会員の皆様からのご一報をお待ちしています。

☆ 予算案につきましては、別紙の様に承認されましたが、会費未納者の取扱につきましても活発に検討されました。事務局でも総会での皆様のご意見を参考にいろいろ検討致しましたが、会費納入をお忘れの方もおられるとのことで、今後の会の運営や、予算執行上にも支障をきたしますので、「エゾマツ会」への入会の意志確認をすることに致しました。つきましては、同封のハガキの下部に入会申し込み欄を設けましたのでご記入のうえご返送下さい。

既に、62年度の会費納入済みの方におかれましてもよろしくお願い致します。

## 地区連絡員の設置について

総会の席上でも話題になった「エゾマツ会」会員の地域活動、ならびに相互理解をより一層活発にするために「地域連絡員」を設置することになりました。今年度に限り、「地域連絡員」を事務局よりお願いすることになります。宜しくご協力下さい。尚、便宜上、下記のように道内を6地区に分けておりますが、不都合な方は所属地区を変更なさってもよいと思います。

### 地域構成員 (敬称略)

地区	一 期 生	二 期 生
道央1 札幌市	鎌田 河村 山本 岸本 小竹 加藤 (清) 大友 山上 小山 樽林 玉田	野月 紺野 幸高 広瀬 村上市 今泉 更科 阿部 田淵 持田 坂本
道央2 石狩北 後志 南空知	片山 齊藤 (勝) 吉野 岩永 船造 岸 高野 佐藤 (進) 志賀 高橋 (美)	森 (敏) 南部 住吉 工藤
道央3 石狩南 胆振 日高	五十嵐 越村 佐々木 (慶) 横山 奥田 石川 (章) 大杉	八戸 森 (優) 加藤 (忠) 杉田 横山 三瀬 松田

道南 渡島 桧山 胆振	森永 白井 千田 武田 竹本 内山 山城 安井 本村 (辰)	本谷 吉井 吉沢 堀 大場 木村 (マ) 渡辺 岩本 田中 越田 山内 上野 齊藤 (秋) 隅田 小松 吉田 (端) 山口
道北 宗谷 留萌 北	上川 網走 空知 室本 戸島 高坂 籠下 熊谷 (陽) 熊谷 (千) 石川 (悦) 配島 吉田	宮中 蔗井 (三) 浦田 高橋 (義) 中島 齊藤 吉川
道東 十勝 釧路 根室	建部 小杉 滝口	鈴木 (昭) 加藤 (公) 田所 齊藤 (武)

## 「エゾマツ会」総会に出席して

佐々木 慶久



札幌で講義終了後に14時27分発函館行きに乗車——19時大沼公園着——ハイヤーにて「JR銚子口駅」近くの国民宿舎「ユートピア大沼」到着——懐かしい同期と再会出来たことを心から喜んでいます。

研修のとりはこびをしていただいた道。支庁の職員の方や総会を準備した「エゾマツ会」の役員の方の努力に心から感謝しております。

総会も第2回のせいこ四角ばらず、たえず笑顔で進行し原案を全員一致で可決となり会員として一安心しました。実は私も一言提案しましたが、会長からの話で納得しました。それは会員に対しての連絡方法です。レンジャーは他に本業のある人が殆どで各々予定もあると思いますので、探鳥会や観察会の日程等が入手次第1日も早く各市町村の会員に通知する方法を講じてもらいたいことです。私のような者でも8月にすでに十月末までの日程が決まっているためです。

研修は二期生共々講義、家にいると遅いのに朝早く実習に参加しましたが、初対面の方とは会場宿舎でも緊張してなかなか挨拶もできず申し訳なく思いました。只グループで行動するとお互いに木や鳥の話題で自然を友として語り合いもでき本当に楽しく勉強できました。講師の先生方には大沼公園の歴史や、枝が見上げるほど高い所にある木の理由、松葉がほほにさしても痛くないもの、水楡、小楡の葉による見分け方、コブシの名の由来、木に止まっている鳥の様子や鳴き声で行動の判別ができること、レンジャーの役割、案内(説明)等を詳細に指導を受けました。

二十五年ぶりに生まれ故郷の近くで勉強できましたことは喜びも一入でした。ボランティア・レンジャーとしての誇りと希望をもって、これからも一つ一つ勉強して退職も間近ですので、それまでに道案内ができることを念願しながら頑張ります。

会報4号の原稿締め切りは

11月30日までです。

# ボランティア・レンジャー体験記

吉田 真紀子

去る8月21日から3日間、道南の大沼国定公園で「第2回ボランティア・レンジャー育成研修会」が行われ、エゾマツ会員の補修コースが設けられているというので参加いたしました。

私達の補修は、聴講と野外実習の2本立てで行われ、午前と午後に分けどちらでも勉強したい方を選ぶ、というスタイルでした。

初日はあいにくと小雨模様でしたが、実習地の大沼森林公園は下草が少ないので足際が明るく、全体にゆるやかな起伏のとても歩きやすい森林で、今回私が歩いたコースには湿地があったり針葉樹の林がところどころにあったりで、丁度キノコ類が出ていました。探鳥には最悪の時期ということで、もっぱら植物を相手にすることになり時間の空いておられた小川・宗像両先生についていただきました。

今回は「自然観察会の企画立案から実施まで」という課題研究があるため、いつもの様に草花や木の名前を覚えるだけでなく実践に即した指導のポイント、話を展開させるコツといったあたりを突に詳しく教えていただくことになりました。

21、22日と同じコースを歩いたので、「ここでこんな話ができるね」「ああこれはこう説明するんだっけ」といったふうな会話が頻繁に出るようになった頃、待っていたような小川先生の言葉。——「研究課題もまとまった様だし、明日の野外実習はエゾマツ会の人達に講師をやっておらうか」——かくして23日、小川先生の班に入ったエゾマツ会のメンバーはそれぞれのポイントで二期生に説明することになってしまいました。

当日は前夜の合同懇談会の興奮もさめやらず、朝からピリピリと緊張し各ポイントの説明内容を思いだそうとするものさっぱり浮かんできません。公園に着く頃列には半分聞き直りの心境でしたがいつ自分の番が来るやらと思うと足も遅くついでその後ろに下がりがちになります。私はエゾマツとトドマツ、チョウセンゴヨウなどの説明をしたのですが、もたついているところを小川先生が口火を切って下さったり、質問につまるとメンバーの方々がすかさずフォローして下さったりで、2か所程度の説明も無事済ませることができました。ボランティア・レンジャーという立場で自分が中心になり話をするのは初めてで、おそらく声は震え、目はつり上がっていたと思いきや、先生やメンバーの方々からおほめの言葉をいただき、天にも昇る程(?)の感激を味わうことができました。しかし反省点も同時に湧きます。自分は、人前で自然についての話をしようとする時、色々な種類を知っていなければいけないと思いがちで、いつも目につく物の名前を覚えることに気をとられていたり自然の良さを知らぬと知らぬとあまり一方的な押しつけがましい態度をとっていたのではないかと——などなど、そうゆう様々な想いを心に残し、研修は終わりました。ボランティア・レンジャーという側だけでなく一人の人間としてこれから自分が見なければならぬ物、知らなければならぬ物がこの研修を通しておぼろげに解ってきたように思います。

ボランティア・レンジャーとしては本当に知識も乏しく未熟な私ですが、一人でも多くの人に自然の楽しさ、厳しさ、大切さを人の心の優しさを添えて伝えられたらと、あの3日間を振り返って痛切に感じています。

3日間親切なご指導をして下さった各先生、色々と励まして下さったメンバーの皆さん、そして特に我々の初体験を優しく見守って下さった小川先生、そしてこの研修会を催して下さった道の方々的心からお礼を申し上げます。

# 「エゾマツ会」研修会のお知らせ

下記の要領で「エゾマツ会」の研修会を開催いたします。

1日目は、野生植物研究者の原松次先生を講師に北大植物園での野外研修と講演(スライド)、2日目は、野幌森林公園主催の秋の森林観察会にボランティア・レンジャーとして協力参加します。何か一つでもボランティア・レンジャーとして参加者に説明を試みる事が次のステップへの大きな自信につながると思います。

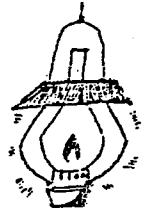
研修会は、2日間を予定しておりますが、都合のつかない方はどちらか1日だけでもよろしいです。多数の参加を期待致しております。

尚、10月10日必着で同封のハガキで出欠の有無をお知らせ下さい。

10月17日(土)

13:20  
13:30 ~15:00  
15:00 ~15:30  
15:30 ~17:30  
18:00 ~

北大植物園前集合  
野外観察  
移動 休憩  
講演 スライド  
懇親会(希望者のみ -3千円程度)

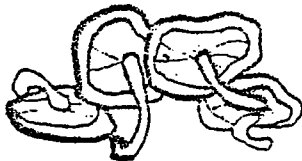


10月18日(日)

9:30  
9:30 ~15:00

野幌森林公園開拓記念館前集合

交通機関 —— 地下鉄新札幌駅より  
JRバス9:10 利用「開拓の村行き」  
に乗車し「開拓記念館前」で下車



持ち物 —— 弁当、双眼鏡、図鑑  
(鳥、虫、植物)

☆ 宿泊の必要な方は1泊5000円以内の宿を斡旋します。

☆ 10月14日午後1時より下見を行います。都合のつく方は是非出席下さい。(野幌森林公園開拓記念館前集合)

## <講師紹介>

北海道大学農学部農業生物科卒。帝国繊維株式会社勤務の後、文化女子大学室蘭短期大学教授を務め、昭和60年退官。45年~54年いぶり植物友の会主宰。現在、朝日カルチャー教室講師ほか。著書に「北海道植物図鑑」(上・中・下)「有珠山の植物」「室蘭の植物」ほか等がある。

昭和61年度 会計決算報告書

No.

収入の部

注) 期間は、561年12月6日より562年7月31日とする。

項目	予算額	収入額	差額	備考
会費 (500円×8)	72,000	54,000	△ 18,000	562年7月31日迄 1,500 × 36名
雑収入	0	500	△ 500	寄付(千回以上)
合計	72,000	54,500	△ 17,500	

支出の部

項目	予算額	執行額	残額	備考
会議費	45,600	0	45,600	
通信費	5,000	13,980	△ 8,980	切手、はがき
研修費	5,000	0	5,000	
印刷費	8,000	4,436	△ 3,564	用紙、印刷費
事務費	5,000	11,650	△ 6,650	封筒、ゴム印
予備費	3,400	0	△ 3,400	
合計	72,000	30,066	△ 41,934	△ 62年度繰越金 (収収金) - 30,066 = 24,434

監査の結果 領収書等確認のうえ上記収支に相違なし。尚残高については、預金通帳及び現金に  
 確認した。昭和62年8月11日 監査員 山崎賢一郎 (監)

火杉三郎 (印)

昭和62年度予算書

収入の部

項目	予算額	内訳	備考
会費	198,000	3,000 <sup>円</sup> × (36 <sup>名</sup> + 30 <sup>名</sup> )	
繰越金	24,434		
雑収入	0		
合計	222,434		

支出の部

項目	予算額	内訳	備考
会議費	90,000	総会 60,000、役員会 30,000	
通信費	40,000	はがき、切手、電話代	
研修費	25,000	講師謝礼(2~3名)	
印刷費	30,000	会誌印刷、用紙	
事務費	15,000	事務用品(封筒、他)	
予備費	22,434		
合計	222,434		



## 62年度会費納入について

62年度「エゾマツ会」の会費を徴収致します。1期生、2期生ともに年会費は3千円です。同封した振替用紙で振り込んで下さい。

納入期限は10月末日ですので宜しくお願い致します。尚、現金を直接納入したい方は下記のところへ納入してください。

小竹 数博 札幌市東区東苗穂6条1丁目8-26  
☎ 011-784-6251

### お原頁い

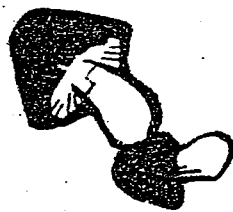
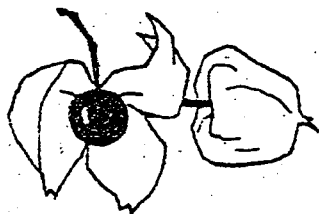
☆ 次号に載せる原稿を募集します。

1. 自然観察
  2. 自然保護
  3. 読書感想分
  4. 本の紹介
  5. その他
- └─┬─┘ に関することで今実践していること

送り先

石狩郡石狩町花川北4条5丁目129  
高橋 美智子 ☎ 0133-74-2058

☆ 住所や電話番号が変わりましたら必ずご連絡下さい。  
郵便物が届かないケースが先日ありました。連絡先は上記に記載してある高橋さん宛にお願いします。



### 編集後記

今回は原稿はかなり前から用意いただきましたが、多忙なため編集作業への取り組みが遅く発行予定日ギリギリに完成しました。そのためレイアウト、カット入れ等が雑になってしまいました。お詫び致します。

今回からは2期生の方にもお届けできると思うと嬉しくなります。発行部数が50部増えるので更に頑張りたいと思います。2期生の方からのたくさんのお便りをお待ちしています。